

## 学習の流れの例

- ① 避難所の役割について理解する。
- ② どのような人が避難所に来るか考える。例 ) 乳幼児、老人、外国人、障害を持った方 等。
- ③ その人たちがどのようなことに困るのか考える。  
例 ) 思う存分遊べない、足腰が悪いのに床で生活しなければならない、日本語がわからない。
- ④ 自分たちができることについて考える。  
例 ) 一緒に遊んであげる、避難所の運営を手伝う、日本語の案内以外に英語の案内を作る 等。

## 学習後の生徒の姿

避難所の役割および課題を学ぶ中で、避難所で中学生ができることを理解し、その中で自分ができることを実行しようとしている。

このページの

指導案 ワークシート

はコチラから!

### 指導のポイント

東日本大震災の際、自らも被災している中学生が、高齢者を背負って移動を助けるようす。小さな体で重い水や物資を運んだ子もいる。そういった子ども達の姿は、震災後の厳しい状況にあって希望であったと記録されている。

参照：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
「報告書-震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト」

中学生の頑張る姿に元気づけられたり、大人に言われるより、中学生に言われる方が大人は素直に聞けたりすることがある。

また、避難所生活で健康に過ごすためには、水分や塩分をこまめにとったり、体の運動や十分な睡眠・休息を取ったりすることが大切。

参照：厚生労働省「避難所生活で健康に過ごすため」

### ●指定避難所とは

市町村が指定するもので以下を目的とした施設。

- 災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させる。
- 災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させる。

参照：内閣府防災情報「2-2 指定緊急避難場所・指定避難所-防災白書」

### ●障がいのある方について

荷物を運んだり、お知らせを掲示したり、専門的な知識がなくても協力できることはたくさんある。目の不自由な人に配慮し、お知らせは拡声器などをを用いた放送でしらせたり、耳の不自由な人に配慮し、放送によるお知らせは必ず掲示する等。

参照：東京都防災ホームページ「災害時要配慮者への支援」

## 避難所で私たちができること

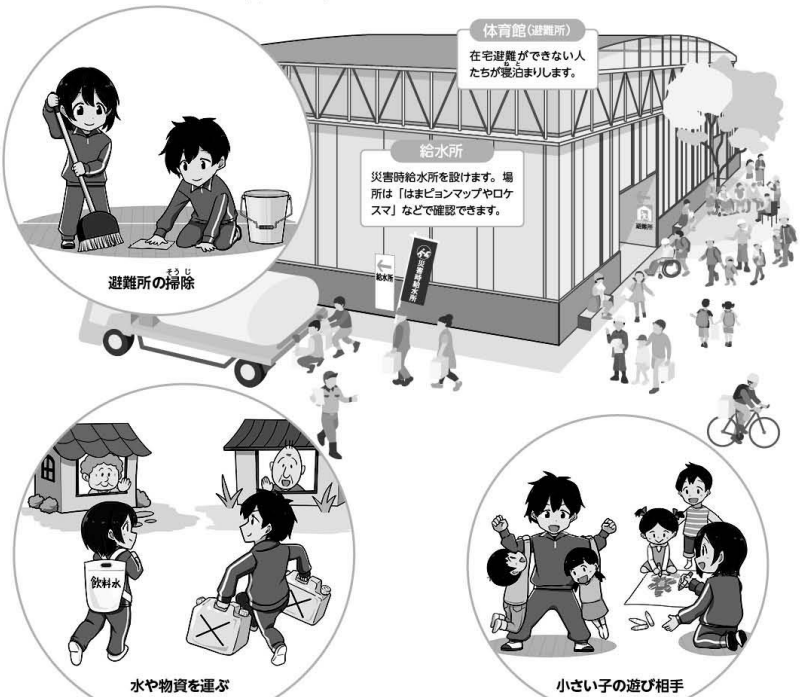
避難所は、地域の人々による助け合いによって運営されています。自分には何ができるかを考えることが大切です。

めあて 避難所でできることを実践する意欲をもつ。



### ◆避難所とはどのようなところ?

地震のときに開設される避難所を「地域防災拠点」といいます。家屋の倒壊などにより、自宅にとまれない人が一定期間避難生活を送る場所です。横浜市内で震度5強以上の地震が発生したときに開設されます。地域防災拠点には、防災備蓄庫を設置し、自宅から持ち出せない人のための食糧や防災資機材を備蓄しています。横浜市内の市立小・中学校など459カ所が指定されています。  
(令和08年4月1日時点)



### ① 避難所で、できることを考えよう

避難所は被災した人たちが共同生活をするところです。マナーを守り、周囲の人と協力しあって過ごしましょう。

- 大声でさわぐなど、人の迷惑になることをしない。
- 高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、外国にルーツのある人などに、思いやりをもって接する。

自分ができそうな事を書き出そう!

横浜市危機管理室からのメッセージ  
災害時に避難所で生活する場合は、さまざまな人と昼夜を問わず、一定期間ひとつの空間で過ごすことになります。自ら進んで誰かを助けられるように日頃から実践し、災害時に発揮できることを期待しています。



### 〈視覚に障害がある方の声〉

視覚に障害があることに気がついても「あっちにトイレがあります」というような説明をされて戸惑った。「あっち」と言われても指す姿は見えていません。

### 〈聴覚に障害がある方の声〉

外見からは聴覚に障害があるとわからないので話しかけられても戸惑うことがあります。

### 〈内部障害がある方の声〉

外見からは障害があることがわかってもらえず困ることが多いです。

### ●ペットの避難

横浜市の災害時ペット対策については、ガイドライン「災害時のペット対策」にまとめられている。ペット同行避難は、動物愛護の観点のみならず、放浪動物による人への危害防止などの観点からも必要な措置。

### 〈確認しておく点〉

- 自分の行く避難所はペットの受け入れをしているのか
- どのような飼育環境なのか（屋外、屋内、車中泊など）
- 受け入れているペットの種類（犬、猫以外の動物は受け入れているのか）

参照：環境省「自治体等が行う人とペットの災害対策」

### ●避難所で気をつけること

不特定多数が避難所に集まるなど、災害時は性暴力被害のリスクが高まると指摘されている。熊本地震の時には、家族から離れた場所で寝ていた10代少女の布団にボランティアの少年が潜り込んだ事件も起きている。

参照：西日本新聞  
「娘の傷は一生消えない」避難所で性被害の闇把握10件、相談できず潜在化も 熊本地震2年」

女性の性被害だけでなく、プライベート空間が確保できずストレスが溜まったり、盗難被害が出たりすることもあるため、非常時の人間の心理や行動の例を生徒の実態に応じて示す。

### ●横浜市危機管理室からのメッセージ

中学生の多くは地元中学校に通っており、災害時には地域にいると考えられる。そして、一定の理解力と体力を有しているため、行政も災害時の中学生の活躍に期待している。

### ●高齢者への声かけ

声を掛ける時は、「大丈夫ですか?」ではなく、「夜は眠れていますか?」など、具体的に質問をした方が答えやすい。

参照：兵庫県立大学大学院看護学研究科  
「災害時に避難所で高齢者の看護にあられる皆様へ（ポケット版）」